

第13期中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会
特別活動ワーキンググループ(第4回) 事例発表
令和8年2月16日(月)

日本型合意形成の成果と課題

—特別活動学からの「自治的な活動」再考—

京免 徹雄
(筑波大学人間系)



ご提案

□特別活動における合意形成の特徴、「自治的な活動」における子どもと教師の対話の必要性をふまえて、

・児童会・生徒会活動の内容に「**学校運営に対する意見表明**」を位置づけてはどうか。

(1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営
生徒が主体的に組織をつくり、役割を分担し、計画を立て、学校生活の課題を見だし解決するために話し合い、合意形成を図り実践すること。

(2) 学校行事への協力
学校行事の特質に応じて、生徒会の組織を活用して、計画の一部を担当したり、運営に主体的に協力したりすること。

(3) ボランティア活動などの社会参画
地域や社会の課題を見だし、具体的な対策を考え、実践し、地域や社会に参画できるようにすること。

※学校行事を「児童生徒が主体的に創造する」活動とするため、現在の(2)は不要ではないか。

子ども同士の対話が中心

子どもと教師の対話が中心

学校運営に対する 意見表明

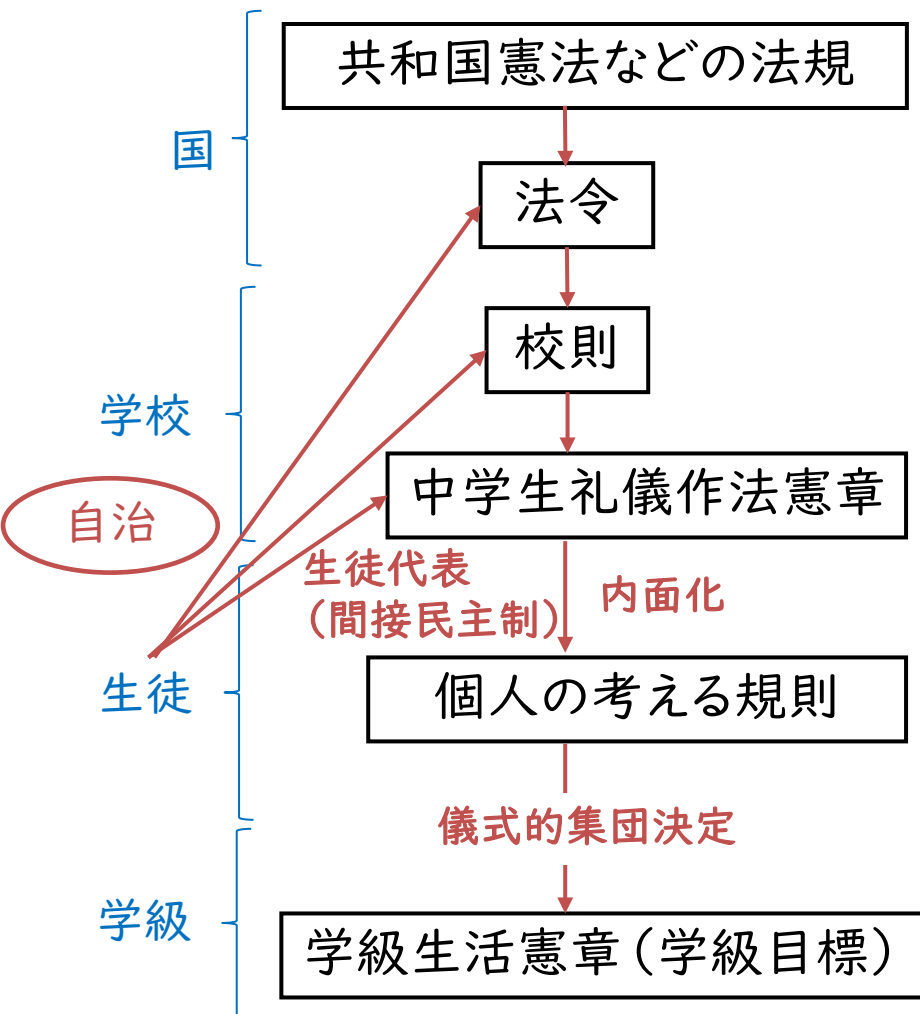
学校のきまりをはじめとする、生活上の課題の解決に向けて児童生徒が提案を行い、教師等との話し合いを通して学校運営に関わること。

Ⅰ. 特別活動における 合意形成の特徴

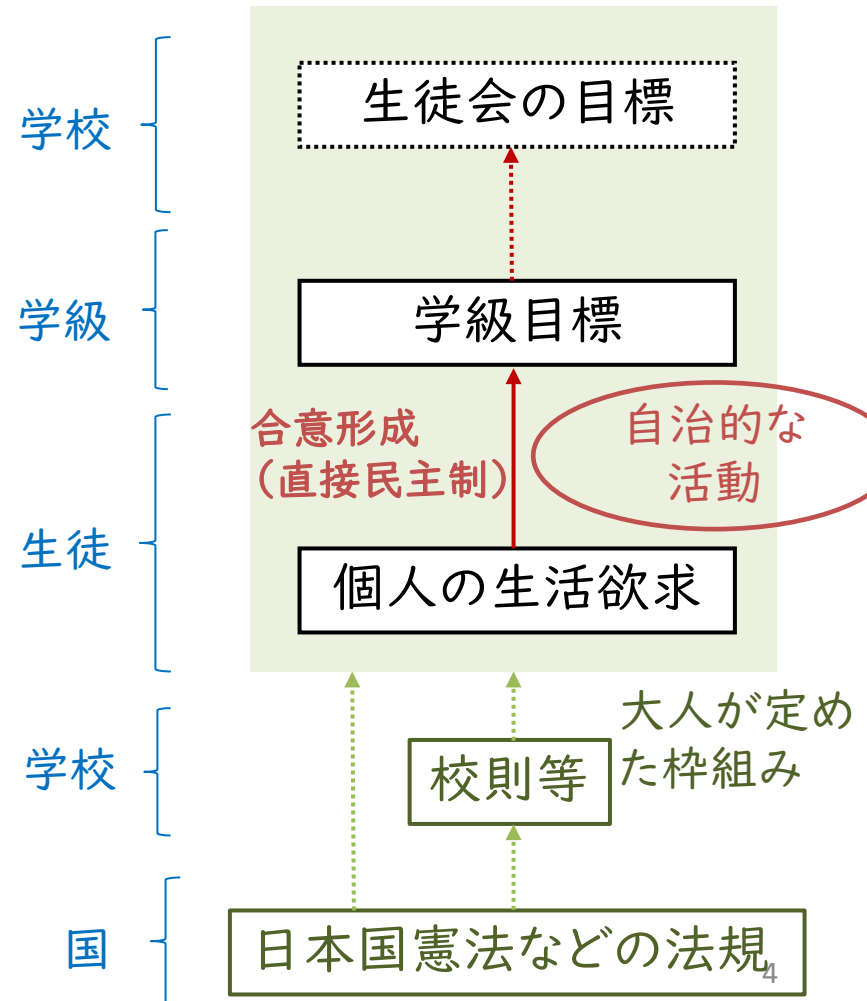
1. 特別活動における合意形成の特徴

□日仏の学級目標の決定プロセスの違い（京免, 2023）

<フランス: 社会化>



<日本: 文化化>



1. 特別活動における合意形成の特徴

□コンセンサス・ビルディングと学級会の比較 (京免, 2025)

①共通点: 安易な多数決によらない

配分型交渉ではなく、統合型交渉／多元的思考

②相違点:

項目	コンセンサス・ビルディング	学級会
参加者	ステークホルダー	学級メンバー全員
対話の形態	間接民主主義	直接民主主義
集団の性質	目的集団	目的集団＋疑似家族集団
アプローチ	交渉による利害の調整	共感に基づく価値の変化
対話の意義	相互利益の最大化	新たな文化・規範の創造
目的	合意事項の実行	教育 (資質・能力の育成)

1. 特別活動における合意形成の特徴

□特別活動における話し合いの特徴

(大浦, 1968)

考えを根拠とともに
表明する

話す

聞く

思考作用

多様性を受け
入れつつ、比
較・選択する

自分の意見

他者の意見

他者の意見
他者の意見

自己の意見

外的ダイアログ

「話し合い」≡「聞き合い」
≡「認め合い」≡「生かし合い」

思考作用

聞く

話す

共感
(empathy)
の発揮

内的ダイアログ

内的ダイアログ

1. 特別活動における合意形成の特徴

□学級活動に対する欧米からの称賛と批判（京免，2022）

…多様性を活かし合う価値創造か？既存価値への同化か？

肯定

- ・内発的動機付けによって、責任ある主体として振る舞う
- ・活動に参加し公平に扱われている実感が、所属感を高める
- ・集団の中の自分らしさ:相補的關係にある自律性と連帯・協力

否定

- ・他者の評価・視線を利用した「みんな見てるぞ」アプローチ
- ・話合いを誘導し、教師の価値観を子どもが決めたように演出

提案

- ・集団への異議表明に対する個人的責任を強化する必要性
- ・個人が自律的に行動できるよう支援する集団をつくる必要性

1. 特別活動における合意形成の特徴

□エンパシーで創る信頼社会としての学級（京免，2025）

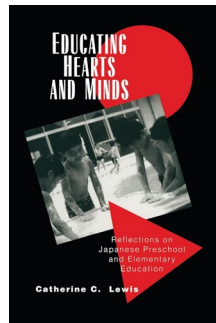
	エンパシー (認知的共感)	シンパシー (感情的共感)
定義	・他者の感情や経験などを理解する能力	・誰かの問題を理解して気にかけていることを示す状態
特徴	・意図的に自分と他者との違いを担保しながら、他者の視点を取り、考え方や感情を推し量る ・相手がその感情を抱くようになった理由を深く論理的に探究する学習が必要	・一体感を得ることで快感をもたらすが、特定帰属のみに依拠すると排他主義的になる ・自分自身を他者に投影するため、他者の存在を利用して自分を拡大するリスク
学級状況	信頼社会 閉鎖性が弱く、情報の非対称性が小さく、話合いで対立を乗り越える「支え合う」関係	安心社会 ・気の合う閉じた仲間内で固まり、空気を読み、対立を回避する「優しい」関係

1. 特別活動における合意形成の特徴

□ 多様な意見の活かし合いが生み出す支持的風土

他者と異なる
意見の表明

友情と帰属感があるとき、子どもは安心感を持ち、遠慮なく意見を表現できる
(ルイス, C.)



集団：開かれた風土
個人：心理的安全性

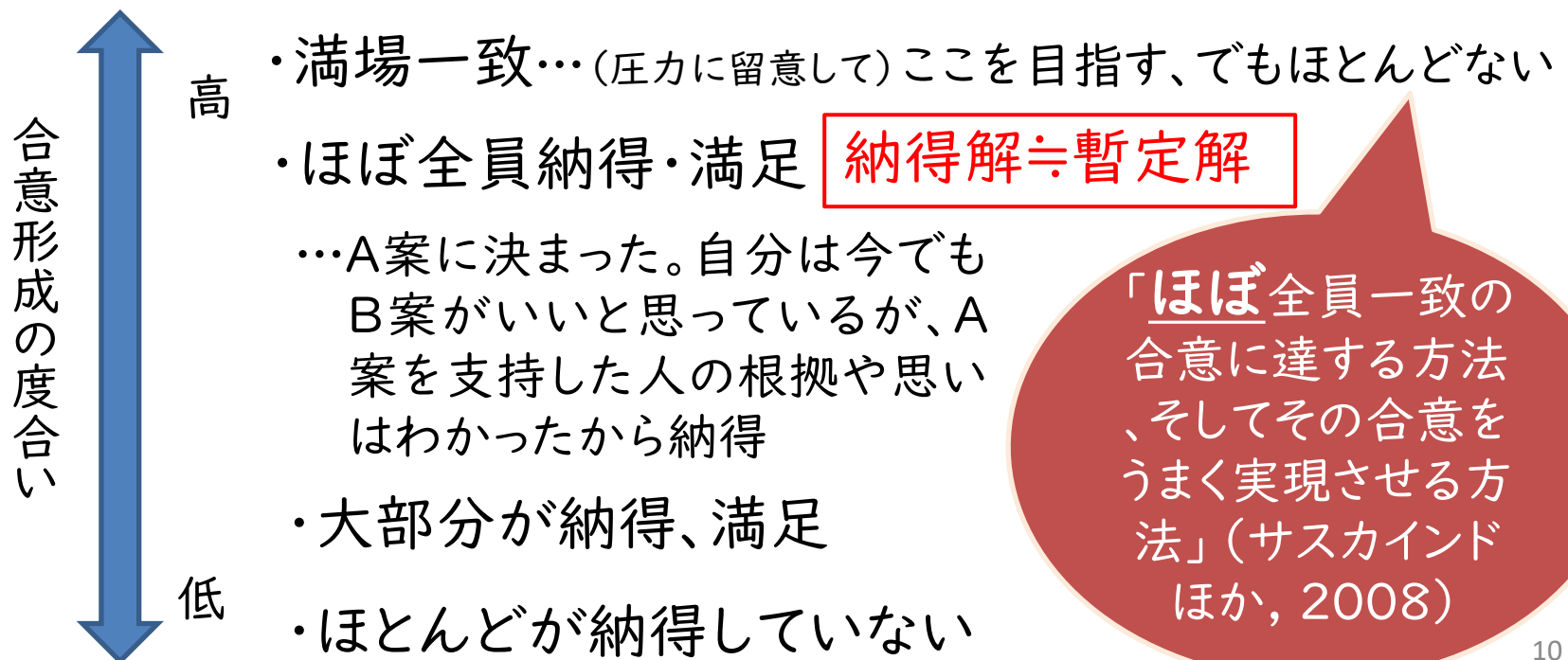
「みんなが気兼ねなく意見を述べる
ことができ、自分らしくいられる文化」
(エドモンドソン, A)

- ・「不一致」に目を向ける
- ・異なる意見の衝突を、教師も子どもも歓迎する
- ・意見対立を人間関係の対立に持ち込まない
- ・コミュニティ全体の利益という視点からの吟味
- ・長期的関係が維持される生活共同体における、平等な発言機会の確保

1. 特別活動における合意形成の特徴

□合意形成のフェーズからみた「納得解」の創造

- ・意見の違いや多様性を認め合い、折り合いを付けるなど集団としての考えをまとめたり決めたりすること（『学習指導要領解説』）
 - 他者に迎合することでも、相手の意見をねじ伏せることでもない



2. 自治的な活動における 子どもと教師の対話

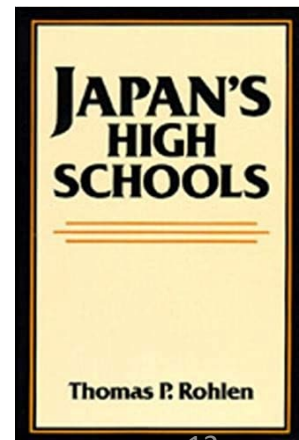
2. 自治的な活動における子どもと教師の対話

□「自治的な活動」の範囲をどのように拡大するか？

- ・精神レベルから行動レベルまで含んだ自治の立体化
 - ・子どもの自治／教師の管理・指導の「二重構造」を編み直す
- ⇒ 「教師と子どもの出会いによって形づくられる物語」である、学級・学校の意味を問い直す対話の必要性（白松,2015）

アメリカでは、何をするかについての決定権を生徒個人や仲間集団に委ねている。他方、日本の高校生は、社会によって「与えられたもの」にいかに適応するかを学ぶのであり、そこには、**自分たちの手で社会をつくりあげる**といった夢や幻想が全く見られないのである。

（トーマス・ローレン『日本の高校』1983年。）



Q5

生徒会活動について

生徒会活動における自治的な活動とはどのようなものですか？

子どもと教師が
対話して決定する

自治的な活動を超える内容例

- 個人情報やプライバシーに関わること
→ (例) 個人情報の公開
- 相手を傷付ける結果が予想されること
→ (例) 特定の個人を責める内容、人権に関わる内容、罰則や罰ゲーム
- 教育課程に関わること
→ (例) 時間割の変更、学級単独の遠足
- 校内の決まりや施設・設備の管理に関わること
→ (例) 体育館等の使用、菓子の飲食、校則の改正
- 金銭徴収に関わること
→ (例) 活動に必要となる集金
- 健康・安全に関わること
→ (例) 危険を伴う集会、生徒の健康を害する活動内容



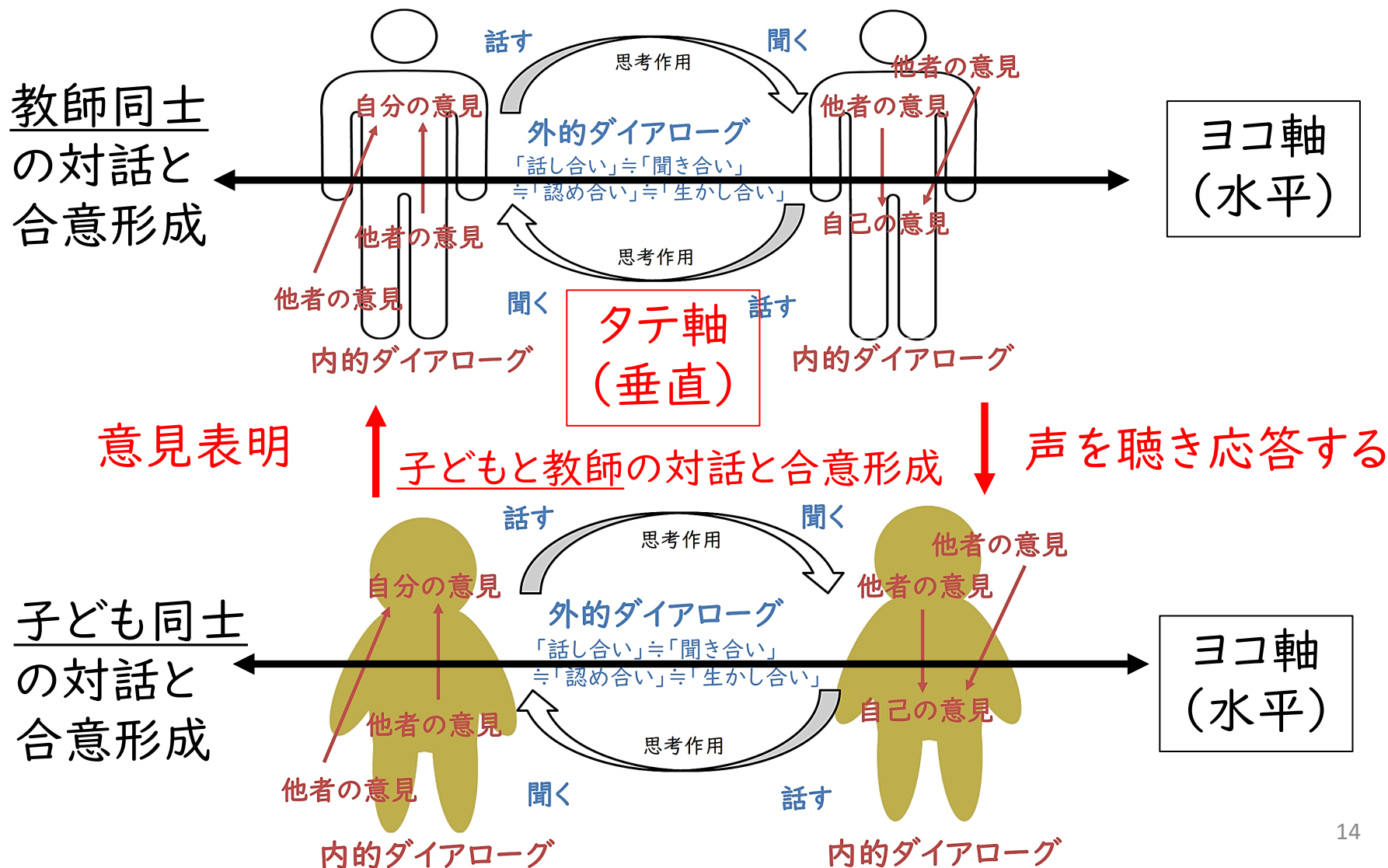
【自治的な活動の実践例】

- 生徒会運営に関すること
・ 生徒会スローガンの決定 ・ 各委員会活動強化週間の設定 など
- 学校生活に関すること
・ 休み時間の校庭や体育館利用に関するルールづくり など
- 校内のきまりに関すること
・ 生徒の髪型や服装についてのきまりの見直し など
- 各種の行事に関すること
・ 文化祭におけるバザーの企画 ・ 体育祭の種目の見直し など
- ボランティア活動に関すること
・ 募金活動や地域清掃活動の実施 など

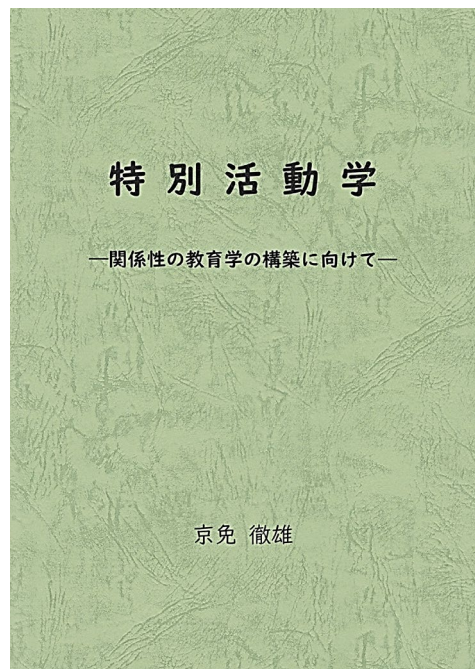


2. 自治的な活動における子どもと教師の対話

□各学校の特色に応じた「意見表明の機会」の確保



ご静聴ありがとうございました



【理論編】

特別活動を「対象」とするこれまでの実践や研究の成果をふまえつつ、学問として成立させるための基盤を検討しています

https://researchmap.jp/kyomen/books_etc/49658745



【実践編】

上記の「実践編」を今春に刊行予定です



京免徹雄・平野修『関係性の学級づくり論』(仮)

参考文献

- ・大浦猛(1968)『特別教育課程の基礎理論』明治図書。
- ・京免徹雄(2021)「アメリカ人研究者からみた日本の特別活動の特質—日本型教育モデルの発信を視野に入れて—」『日本特別活動学会紀要』第29号、41-50頁。
- ・京免徹雄(2022)「海外の研究者からみたTokkatsuの機能とメカニズム—学校のエスノグラフィで特別活動はどう描かれてきたか—」『筑波大学教育学系論集』第47巻1号、1-14頁。
- ・京免徹雄(2023)「市民性の育成に向けた学級活動の機能に関する日仏比較—中学校における学級目標の作成プロセスに着目して—」『日本特別活動学会紀要』第31号、29-38頁。
- ・京免徹雄(2025)『特別活動学—関係性の教育学の構築に向けて—』筑波大学人間系教育学域特別活動学研究室。
- ・サスカインド, R.E.・クルックシャンク, J. L. (2008)『コンセンサス・ビルディング入門』(城山英明、松浦正浩訳)、有斐閣。
- ・白松賢(2015)「「自発的」「自治的」の行方—特別活動にみる子ども中心主義のパラドクス—」『子ども社会研究』第21号、61-74頁。
- ・ブレディみかこ(2021)『他者の靴を履く』文藝春秋。
- ・山岸俊男(1999)『安心社会から信頼社会へ』中央公論新社。